

授業科目名・形態	コミュニケーション技術Ⅰ 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	高橋 俊文	実務経験の有無	有	開講期	1年前期

【授業の主題】

対人援助においては、クライアントと信頼関係を築くこと、どのように相手の話を聴けるかが関係性に影響を与える。そのため、対人援助職は、専門知識や技術を身に付けても聴く態度を磨いていかなければ、利用者・家族・多職種と信頼関係を築き相手を理解していくことが難しい。本講では、利用者・家族との支援関係の構築やチームケアを実践するための意義、技法、聴く態度を学ぶ。そうすることで、クライアントの生活支援に必要なコミュニケーション能力・態度を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. クライアントの置かれている状況を理解し、信頼関係の構築や思いの表出を支援する観点から、介護実践におけるコミュニケーションの基本的な技術や態度に関して説明ができ、実践できる。
2. 家族全体を支えながら介護行為に繋げていくためのコミュニケーション技術の技法、態度について理解し、説明、実践できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 介護を必要とする人とのコミュニケーション(意義と目的)
- 第3回 介護を必要とする人とのコミュニケーション(役割と効果)
- 第4回 介護における生活支援とコミュニケーション
- 第5回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：話を聴く技法
- 第6回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：感情表現を察する技法
- 第7回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：納得と同意を得る技法
- 第8回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：質問の技法
- 第9回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：相談・助言・指導の技法
- 第10回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：意欲を引き出す技法
- 第11回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：意向を調整する技法
- 第12回 複数の利用者がある場面でのコミュニケーションの技法
- 第13回 その他のコミュニケーション：指示・助言・支持の技法
- 第14回 その他のコミュニケーション：アイメッセージの技法
- 第15回 その他のコミュニケーション：アサーションの技法

【授業実施方法】

講義を中心とし、講義内容によりロールプレイ、演習を取り入れた内容とする。

【授業準備】

授業前に該当箇所を読んで、分からないことを明確にしておくこと。また、学習を通じて自己のコミュニケーションに関する苦手なことを認識していくこと。

【主な関連する科目】

コミュニケーション技術Ⅱ、介護の基本Ⅰ～Ⅵ、介護過程Ⅰ～Ⅴ、人間の理解Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術論Ⅰ・Ⅱ、日常生活支援技術演習Ⅰ～Ⅹなど

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編：コミュニケーション技術(第2版)、中央法規出版、2022。

【参考文献】

土井健郎、新訂方法としての面接、医学書院、東京、2016。諏訪茂樹、援助者のためのコミュニケーションと人間関係(第2版)、建帛社、東京、1995。

【成績評価方法】

授業態度・参加意欲等10%、レポート30%、期末試験60%の総合評価とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は、包括支援センター職員として、クライアントの思いを受け止め「その人らしさ」を支えてきた。そのような臨床経験に立った講義展開を行う。

【学生へのメッセージ】

ロールプレイ・演習に積極的に参加し、分からないことを質問するなど主体的に講義に参加すること。